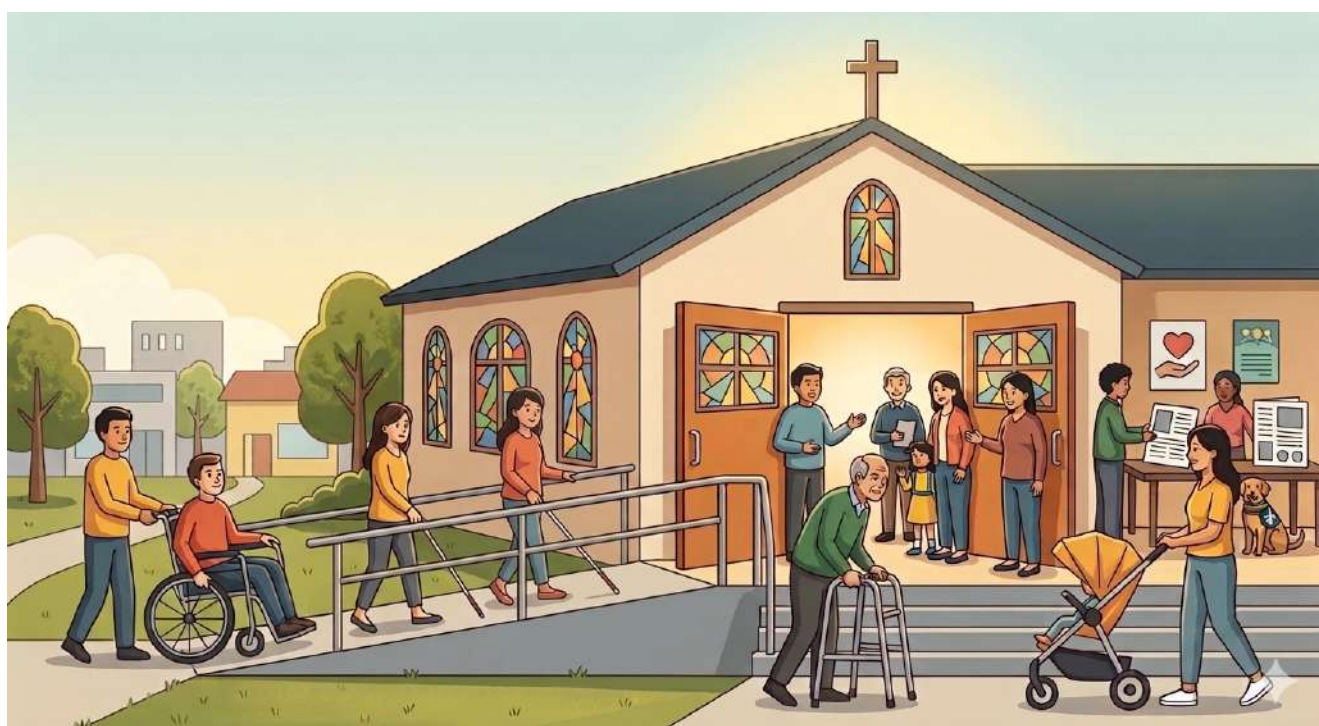


合理的配慮 ～関わり合う教会を目指して～

教会活動に関するアンケートまとめと提言



2025年4月～2026年3月
日本聖公会東京教区
合理的配慮ワーキンググループ報告書

表記について：

合理的配慮ワーキンググループでは「障害」、「障害者」と表記いたします。これは、当事者の方の声から、障害をもって生きる人々の不便さに目を逸らさず、また真の「障害」がどこにあるのかを曖昧にしないという意図によるものです。

巻頭言

「合理的配慮」ワーキンググループ

2025年3月20日（木・休）の東京教区第146（定期）教区会議事に先立ち、大石忠さんによる「合理的配慮」の研修をしていただきました。これに端を発し「合理的配慮ワーキンググループ」が発足し、精力的に働きを進めてくださっています。「合理的配慮」は、突き詰めれば「教会論」という教会の在るべき姿と役割、公共性を指すものであり、神様からの尊い授かりものであるいのちに繋がる基本的信仰のテーマの一つです。

配慮とは賜物が豊かに活かし合えること、他者への気づきと祈りが動機となるはずです。先般、同グループからの提言に対し、日本聖公会主教会として「合理的配慮として祈祷書データを共有化することについては、現行祈祷書の場合、教区主教の承認のもと各教区で対応する」ことが承認され、これにより東京教区として式文データの共有化を進めてくださっています。また、教区礼拝、聖職按手式等、障害を持つ方がたへの配慮が当然のこととして備えられ、皆が参加できる礼拝を目指そうという提言と実施もなされています。また、大きな文字、他言語、点字など、共有できる式文や聖歌のデータ化への準備、教区事務所敷地内点字ブロックの補修などの働きも生み出されています。

「共に歩む」というキリストの歩みに倣い、私たちキリストの教会は共に歩むことによって成長させられます。「壁を作るだけで橋を架けない教会」にはならないため、いのちを愛でる教会に成長し続けるためにも、この働きの上に聖霊の導きと祝福を祈り続けます。

主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

目 次

巻頭言

日本聖公会東京教区 主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1

合理的配慮ワーキンググループ

～関わり合う教会を目指して～ ・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3

教会活動に関するアンケートのまとめと提言 ・・・・・・・・ p.4

関連資料1 「関わり合う教会を目指して」 ・・・・・・・・ p.6

関連資料2 「教会活動に関するアンケート」 ・・・・・・・・ p.8

「教会活動に関するアンケート」

【1】 礼拝について

「祈祷書・聖歌集・礼拝奉仕をふくめて、不便だと感じること」
・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10

【2】 その他

① 「教会活動や奉仕について、困っていること」について・・ p.17

② 「教会に来られない不便さ」について・・・・・・・・ p.22

【3】 「不便さをなくすために、教会で工夫していることや良い取り組み」
・・・・・・・・・・・・・・・・ p.25

ワーキンググループ開催日と主な内容 ・・・・・・・・ p.28

合理的配慮ワーキンググループ

～関わり合う教会を目指して～

ワーキンググループについて

2025年3月20日に東京教区第146（定期）教区会で、日本基督教団逗子教会信徒でNCC「障害者」と教会問題委員会委員の大石忠さんを講師に迎え、「合理的配慮と教会の役割」の研修を実施しました。大石さんは、10歳の時に空襲にあい、間近で爆弾が破裂し聴力を失いました。聴覚障害をもつ当事者の視点から、ご自身の障害と信仰、そして法に定められた「合理的配慮」についてお話しくださいました。

研修会后、教会が互いに仕え合う信仰共同体となることを目指し、教区主教の方針のもと、継続的な取り組みと啓発を目的として、同年4月に人権委員会、ハラスメント防止委員会、「障がい者」関連活動連絡会（障関連）による「合理的配慮ワーキンググループ」が発足しました。

ワーキンググループの目的

- ① 2025年3月20日の東京教区教区会研修「合理的配慮と教会の役割」のフォローアップ、および各教会・礼拝堂の学びのための資料作成と配布。
- ② 各教会・礼拝堂からの質問や相談を受け付ける窓口となる。
- ③ 各教会・礼拝堂の取り組み状況を把握し、必要な助言・働きかけを行う。
- ④ 全体の状況調査と課題の検証。
- ⑤ ワーキンググループ（WG）で検討された重要課題について、常置委員会および責任役員会へ報告・提案を行う。

本報告書は、東京教区内の各教会・礼拝堂を対象とした「教会活動に関するアンケート」の結果と提言をまとめたものです。当初、活動期間は1年間としていましたが、調査結果を受け、継続的な働きの必要性が再認識されました。

東京教区と北関東教区は一つとなり、東日本教区として新しい歩みを始めます。このことから、常置委員会の議を経て、新体制へ機能が引き継がれるまで、本ワーキンググループは教区主教のもとで活動を継続いたします。

教会活動に関するアンケートのまとめと提言

2006年に国連で採択された障害者権利条約第2条にある「合理的配慮」は、正しくは「合理的調整」「合理的便宜」の意味ですが、それを「配慮」と訳しているために、上から目線のような違和感を持つ方は少なくないようです。また「支援」「思いやり」「助け合い」などと混乱していることもあり、教会内での理解が深まっているとはいえません。

私たちは何を目指すのか

障害者権利条約第17条には、「全ての障害者は他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態尊重される権利を有する」とあります。

「障害」者が変わらなければいけないということではないと明言しています。「障害」は個人の問題ではなく（医学モデル）、社会との課題・関係性であり（社会モデル）、それを解消するのは社会の責務なのです。

「合理的配慮」は、法律で定められなくても、当然に行われるべき日常的な配慮です。機器などを使って不便さを和らげるだけでなく、教会の一員として共に生きてゆく、つまりお互いの存在を尊重し合い、日常生活の場を分けないことが大前提の姿勢です。

イエスさまが「障害」を治されたという聖書の中の奇跡は、「障害」者を「健全」者に近づけるのではなく、「障害」を否定しているのでもなく、一緒に暮らしてゆくにはどうすればいいのかを示してくださっているのではないのでしょうか。

『一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、一人一人はその部分です。』（コリントの信徒への手紙1. 12章26節～27節）

まず、それぞれの人があるまま認め合える関係を築くこと。さらに、教会社会が不合理を強いている現状を直視してゆくこと。教会の中で渦巻いている無意識な差別意識を取り除く努力もしてゆきたいと思います。

何から始めようとしているのか

アンケートの回答は、羅列して、考察して、答え合わせをすることが目的ではありません。合理的配慮ワーキンググループの活動期限は、当初は2026年3月まででしたが、アンケートで多くを知ったことでやっと出発点に立てたので

すから、期限は延長して、まずはふたつの具体的な行動を試みることにしました。

ひとつ目は、各教会・礼拝堂および教役者が作成している式文データを、オンラインクラウド上において、教役者および各教会・礼拝堂の礼拝担当者間で共有できるようにすることです。管区に問い合わせと要請をしたので、これが実現すれば、すでに工夫し作成している教会・礼拝堂は、取り組みを交流し合うことでさらに発展してゆける可能性が出てきます。これから取り組もうとしている教会・礼拝堂でも、具体的な道筋が分かり、先進的な事例を大いに活用してゆけるとおもいます。

ふたつ目は、教区礼拝における合理的配慮の提供です。情報提供としての手話や要約筆記などと、介助などの提供です。そのためには、手話通訳士、要約筆記者などサポーターの募集についても考えてゆきたいとおもいます。教区礼拝に、「障害」のある信徒もない信徒も、当たり前に出席できれば、自分たちの教会・礼拝堂の礼拝でも、合理的配慮を抵抗なく進めてゆくことができるのではないのでしょうか。

共に生きる教会に

アンケートにご協力いただき、改めて感謝しています。合理的配慮ワーキンググループでまとめた実態を「きょうくニュース」に載せていただいたことで、各教会・礼拝堂では、自分の当たり前が誰かの当たり前でないことに気づくことができました。合理的配慮と、「支援」「思いやり」「助け合い」などとの違いについても、さらに考えや感覚を深めてゆきたいとおもいます。

世の中がそうであるように、教会の中でも、「してもらうばかり」「するばかり」と、ともすれば損得勘定が働き、見返りを求めがちになってはいないでしょうか。「合理的配慮はずるい」という意見が聞こえてくることも、少なくありません。

これから北関東教区と新教区を設立することになりますが、お互いに当たり障りのない関係でなく、多くの依存先、依頼先を作り出し、補い合って、合理的配慮が、上から目線の「配慮」の域を脱してゆき、共に生きる教会として歩んでゆけることを願っています。

『見よ、きょうだいと共に座っている。なんという恵み、なんという喜び』
(詩編133編1節)

関連資料 1

東京教区

聖職者・信徒代議員 各位

関わり合う教会を目指して

2025年7月18日

合理的配慮ワーキンググループ

～関わり合う教会を目指して～

あなたがたはキリストの体であり、一人一人はその部分です。(コリントI 12:27)

東京教区第146(定期)教区会の中で『合理的配慮と教会の役割』のテーマで研修を行いました。講師の大石忠さんは、聴覚障害と共に生きてきたご自身の経験と、信仰的また法的な視点を合わせてお話してくださいました。「障害」は、その人個人に属するものではなく、社会の側にあるものだという認識をもち、困難をもつ人に対して、どのような助けが必要かを聴き合い、関わり合う姿勢が大切だと教えてくださいました。

「合理的配慮」の元の言葉は“reasonable accommodation”(=納得できる互いの調整)という意味であり、一方的な要求や方策ではありません。むしろ、気づき合うこと、知り合うこと、聴き合うことなど、互いを受け入れる「プロセス」と「コミュニケーション」が重要です。

一方、教会である私たちは、キリストを生き、いのちに仕え合う共同体です。すべての人に開かれた安心で安全な場所であること、それぞれに授かった賜物が活きるために、私たちの立つ場所を常に確認したいと思います。

研修会后、東京教区人権委員会、ハラスメント防止委員会、「障がい者」関連活動連絡会(障関連)によって、「合理的配慮ワーキンググループ」が立てられ、各教会・礼拝堂の皆様と合理的配慮を考える上で、何が大事なのか、この間話し合われてきました。ワーキンググループでは、障害の枠を超えて「みんなが互いに配慮し合える教会」、また主イエスがそうであるように、私たちも「立ち止まって目の前にいる人と関わり合える教会」になれたらよいという思いをもち、そのために、今ある教会の障害(=障壁)に気づき、取り除いていけるよう取り組みを広げていきたいと考えています。

社会の共通認識として「合理的配慮」という言葉を使いつつも、東京教区の教会・礼拝堂の皆様と共に目指すところは、障害がある人もない人もみんなが「関わり合える」教会となることです。高齢の方、病気や怪我を負っている方、こども達…。誰かの不便さを、立ち止まって声をかけ合い助け合える共同体になるために、知り、気づき、よりよい教会の姿を目指していきたいと願います。ワーキンググループの名称も「合理的配慮ワーキンググループ～関わり合う教会を目指して～」としました。

最後に、このワーキンググループでは「しょうがい」を「障害」、「しょうがいしゃ」を「障害者」と表記いたします。当事者の方の声から、障害をもって生きる人々の不便さに目を逸らさず、また真の「障害」がどこにあるのかを曖昧にしないという意図によるものです。ご理解いただけたら幸いです。

教会・礼拝堂の皆様、以下のご案内とご協力のお願いをいたします。

1. 研修会動画 下記リンク、または QR コード から視聴できます。
<https://www.youtube.com/watch?v=W7rhYnzfFxU>



各教会・礼拝堂で用い方を検討いただき、研修会動画を積極的にご活用ください。

2. アンケートの実施

- 【目的】**
- ・ 信仰生活や教会活動における「不便さ」を調査するため。
 - ・ 全ての人々が礼拝や教会活動に参加できる「工夫」を調査するため。
 - ・ 各教会・礼拝堂の知恵や経験が、他の教会・礼拝堂の助けとなり、共に気づきを得るため。

- 【形式】**
- ・ 無記名、個人回答です。同封のアンケート用紙をコピーしてお使いください。
 - ・ 文字の読み書きが不自由な方に対しての代筆等、配慮をお願いします。
 - ・ 回収箱を各教会・礼拝堂でご用意ください。
 - ・ 必要な方へは、メールでアンケートを送信いただき、個人情報と守秘義務厳守で回収をお願いします。

- 【回収方法】** 各教会でアンケートを回収いただき、まとめてご提出をお願いいたします。

提出期日：10月24日（金）

〒105-0011 港区芝公園 3-6-18 東京教区事務所

「合理的配慮ワーキンググループ～関わり合う教会を目指して～」宛

この呼びかけについては、研修会に出席された信徒代議員および各教会の聖職者の皆様を通して、各教会に詳細をお伝えくださいますようお願い申し上げます。ご質問や、ご相談は随時、ワーキンググループまでお寄せください。問い合わせ先：mission-sec.tko@nssk.org

<ワーキンググループメンバー>

ハラスメント防止委員会：司祭 太田信三、岸まち子（聖テモテ）、司祭 中川英樹

人権委員会：岸田静枝（清瀬聖母）、福澤真紀子（宣教主事）

障関連：飯塚哲二（聖テモテ）、海宝晋一（聖マーガレット）、杉石めぐみ（目白）、

中山玲子（八王子復活）

この取り組みを通じて、各教会がそれぞれの課題や良い点を再確認し、また教区諸教会の取り組みを分かち合うことで、よりよい信仰共同体を築いていけることを願っております。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

きょうかいかつどう かん
教会活動に関するアンケート

きょうかいめい
(教会名：)

このアンケートは、日々の教会生活や信仰生活のご経験やご意見をうかがい、
教会内や、他の教会と共有することで教会全体の発展を目的としています。
ご協力をお願いいたします。このアンケートは無記名です。

- 信仰生活や教会活動において「不便さ」を感じていることはありますか？
- 障害者の方が実際に困っていたり、不便に感じているだろうと思うことはありますか？

くたいてき もんだいてん かだい くふう き
具体的なエピソード、問題点や課題、工夫をお聞かせください。

れいはい
【1】礼拝について

- 祈祷書・聖歌集・礼拝奉仕をふくめて、不便だと感じることはありますか？

- 不便さをなくしていくための提案がありましたら教えてください。

うらめん
裏面につづく

「教会活動に関するアンケート」 (2025.7月～10月実施)
～各教会・礼拝堂から寄せられた声～

回答を不便さごとに分けて「ハード面＝物理的な事柄」と「ソフト面＝心理的、人に関わること」にまとめました。各教会・礼拝堂での更なる話し合いのヒントとなれば幸いです。個人的な部分は編集しています。()の数字は複数回答の数です。

* 表記について：合理的配慮ワーキンググループでは「障害」、「障害者」と表記いたします。これは、当事者の方の声から、障害をもって生きる人々の不便さに目を逸らさず、また真の「障害」がどこにあるのかを曖昧にしないという意図によるものです。

【1】礼拝について

「祈祷書・聖歌集・礼拝奉仕をふくめて、不便だと感じること」

1-1. 「聞こえづらさ」の不便さについて

<ハード面>

説教や報告等が難聴のため聞きにくい。わからない(11)/マイクが不調だと聞きにくい/補聴器使用者が多い

<ソフト面>

聴覚障害の方がいらしたときのサポートがない/説教が聞き取れないと礼拝に出席する意味は半減する/マイクを使っても聞き取りにくい説教者がいる/耳が悪いので礼拝に出席することを諦めてしまう/司祭により早口、口にこもる方等いて説教が聞きづらい/会話が聞き取れない/大きな声で話してくださいとお願いするのは申し訳ない。

◆ 「聞こえづらさ」に対する提案

<ハード面>

礼拝音声をラジオで礼拝堂内にとばす(3)/説教（抄録）や報告文を印刷して配布(3)/マイクを用いる(2)/スピーカーの音量調整・音響調整(2)/スクリーンに映し出す(2)/スピーカーシステムの改善/マイクの電池の予備を準備、マイクの

スピアの準備を礼拝前に確認する/説教の前にマイクの音量を確認してから話し始めていただく/タブレットを用意し言葉が表示されるサービスを利用する/自動翻訳機を準備/補聴器使用者が聞こえやすくなるように磁気誘導ループの設置を検討する/礼拝音声をユーチューブ配信して礼拝堂内でイヤホンで聞く/データ化した礼拝内容を必要な人に渡す/司祭・聖歌の音を聞こえやすくする

<ソフト面>

牧師がゆっくり話し説教する(2)/手話を用いる(2)/礼拝で前の方に座り説教が聞けるようにしている/牧師が間を取って説教する/聖職はマイクに頼るのではなく少し大きい声で礼拝をする/礼拝後のアナウンスやお祈り(特に代祷)は、ゆっくり、大きくを心がける/手話通訳の学びをする/手話による説教の解説

1-2. 「見えづらさ」「読みづらさ」の不便さについて

<ハード面>

見るものが多くあちこちにとぶので礼拝についていくのが困難、もたもたする(25)/祈祷書の文字が小さい(8)/教会に点字の聖歌集がない(4)/印刷物の文字が小さく見えづらい(2)/点字の祈祷書が未だに改訂第一版で古い(2)/点字の式文は備え付けのものがない(2)/聖堂が暗く明朝体の祈祷書の文字がよみにくい(2)/礼拝で使用するものが3冊あるのが不便/聖歌番号が見えにくい/音声テキスト版の祈祷書は本文とルビを両方読んでしまい、全く使えない/礼拝で聖書教会共同訳聖書を使用しているが点字の聖書は新共同訳聖書しかない/葬送式文やクリスマスイブ礼拝のレッスン&キャロルの点訳版が教会にない/「光の礼拝」などは全国共通のものではなく点訳されていない/点字祈祷書が点字データではなくかさばる紙の本なので使いにくい/点字の祈祷書がほしい/点字ファイルの式文がほしい/点字の祈祷書は活字版の全てが点訳されていない/日本聖公会が出している聖歌集に点字楽譜がない/点字の聖書が教会で準備されていない

<ソフト面>

祈祷書、聖書、聖歌集を交互に手にしての礼拝は手助けするのも不便/横で教えると、小声で指示する声が大きかったり、ざわつく感じが気になる/陪餐方法が聖職によって異なり、それが見えないのでとまどう/聖歌の伴奏でメロディーを弾いていただけないと、知らない歌のとき歌えない

◆「見えづらさ」「読みづらさ」に対する提案

<ハード面>

拡大文字の式文を作る(6)/祈祷書の文字を大きくした別冊を作る(5)/ 祈祷書抜粋が用意されている(4)/大きな文字の聖歌を用意する(3)/祈祷書や聖歌をスクリーンに映し出す(2)/祈祷書文字をゴシック体にする/礼拝で使用するものを教会ごとに1冊にまとめる/A5サイズが見えづらい場合にB5サイズの冊子も作成する/その日の日課、聖書、聖歌を必要な方用に抜き刷りにする/その主日の聖歌のページに付箋を貼った聖歌集を、10冊くらい用意する/席の途中の柱にも聖歌番号を掲示する/教会や会衆ごとに文字のフォントや大きさを変えてコピーする/祈祷書にタックインデックスのようなものがついていると便利/祈祷書・日課・週報の三つを一緒にする/聖書アプリを手元のスマホで用いる/データ化したその日の礼拝の内容を点字化する/点字データで祈祷書を発行する/最新版の祈祷書を点字と録音で発行する/各教会に点字祈祷書と聖歌集と聖書を必ず備える/教会に点字式文がある

<ソフト面>

どの本の何ページを開くかをアナウンスする(2)/みんながページを開けるまで待つ(2)/さりげなく次のテキスト、資料に移る時に当該資料名に触れる/祈祷書、日課、週報、各々にお話が進行し移ると分かりやすい/祈祷書の点訳と音訳について利用者を交えて検討し作る/目で文字を追うことだけに注力するのが礼拝ではないことを伝える/礼拝の空気感を全身で感じていただき安心、安らぎを感じられるようサポートする

1-3. 「手足等の不自由」による不便さについて

<ハード面>

聖歌集が重い(32)/聖書が重い(5)/祈祷書が重い(4)/ 聖歌集が持ちにくい(5)/聖歌集のページがめくりにくい(2)/ 聖歌集の文字が小さい(2)/聖歌集が大きく持つことが難しい人がある/サイズが同じ方が使いやすい/祈祷書の厚さは不便/聖書が厚い/聖歌集の大きさが持ち運びに不便/祈祷書、聖歌集、聖書の大きさが不便/礼拝堂が2階で階段の手摺はあるが昇降しづらい/聖堂のピュウ(椅子)の背もたれが鋭角で腰痛だと辛い/入口のスロープは形ばかりで勾配がきつい/靴の着脱が大変/トイレが使いづらい/電車を乗り継がなければ教会に行けない

<ソフト面>

膝まづく姿勢がとりにくい/手の不自由な方のために支援者が式文や聖歌集を本人の目の前に持ち続けている/その日の式文の簡易版を毎回プリントアウトするのは不便

◆「手足等の不自由」に対する提案

<ハード面>

聖歌集は使用するページをコピーする(4)/簡易版の式文(2)/聖歌集や祈祷書のPDF配布などの電子化/祈祷書や聖歌をプロジェクターで映せるデータがあればよい/古今聖歌集と同じ小型サイズの聖歌集の販売/聖歌集を日基教団の「讚美歌21」くらいの大きさにする/プロジェクターで聖歌をスクリーンに映す/日課等を別に作成、聖歌集+紙冊子だけで済むようにした/軽い聖歌集/聖歌集の整理・抜粋版の発行(3)/聖歌集のよくつかうものとそうでないものを分ける/祈祷書を分冊にする/サイズを揃えてつくってほしい/聖書の分冊版は便利だった/聖書のタブレット、ノートパソコン用のファイルの公開/式文や聖歌集が置ける譜面台を貸し出す/バリアフリーの礼拝堂/土足の聖堂にする/トイレに手すりを設置する/エレベーターの設置/車いすの方の参列スペース確保/車いすで障害なく入れる聖堂/使いやすいスタイルの椅子

<ソフト面>

周りの人が声かけあい介添えする/入口に濡れ雑巾をおき、拭いて靴のまま入れるようにする

1-4. 「感覚過敏やメンタル」による不便さについて

<ソフト面>

鍾の音が大きすぎて耳を塞ぐ時がある/奉仕等したいがしたくなくなる気持ち/90分の礼拝中ずっと安定しなければと思うと怖い/奉仕しないと礼拝への参加のハードルが高くなる/自分の体調不良のためなのか、コミュニティの課題かわからない/発達しようがい(ASD)をもっており愛餐会などで所在なさげになってしまう/ストレスのない愛餐会の出席方法を模索したが最近では礼拝から離れてしまっている/外傷後ストレス障害のため予めどの様な趣旨の説教が準備されているか知りたい

◆「感覚過敏やメンタル」による不便さに対する提案

<ソフト面>

新来者や所在なさげな人を他の人とつなぐ存在/ PTSD等を抱えた信徒には予め説教の趣旨を提供する

1-5. 「日本語が母語でない」不便さについて

<ハード面>

祈祷書、聖歌集の英語版があるとよい(2)/外国語での対応が困難(2)/多言語で書かれた礼拝式文があるとよい(2)/中国語の礼拝参加者向けの冊子がほしい/聖餐式文で中国語や韓国語など対訳がない/正式英訳式文は聖餐式しかない/外国人の突然の礼拝参加に対応できない/外国人用の礼拝案内がない

<ソフト面>

外国の方がいらした時、一緒に讃美、お祈りが出来たらよい/説教も理解して頂けたらよい

◆「日本語が母語でない」不便さに対する提案

<ハード面>

英語版の式文を作る(3)/日英語で書かれた冊子の増刷/ハングル版などの式文を作る/日本語版の文字を拡大しルブリックにもふりがなをふる/英語版の式文やポケトークのような翻訳機を受付に置く/英文祈祷書式文+レスポンス音符をシーズンごとに小冊子の英文+音符を作成/日本語・外国語が右左ひと開きで見られる二か国語式文の製作/2か国語式文は読み仮名が見辛いので付けない/英語、韓国語、中国語の聖書を備える/祈祷書、聖歌も多言語対応を考えたい/教区で複数言語の式文を作成いただけるとありがたい/通訳にAIの機能を使えたり出来ないだろうか？

<ソフト面>

外国人への対応について他教会での様子も聞く

1-6. その他の不便さについて

<ハード面>

配布物が多い(3)/式文のコピーに手間がかかる(2)/祈祷書の「師父」のまま「司祭」と読むのは違和感(2)/前の椅子の祈祷書を置くスペースが狭く本が落ちる/子連れの場合礼拝音声をホールで聞けたらよい/聖歌のバージョンが多すぎて混乱する/聖歌集の曲は男性キーでは歌いにくい/古くなった聖なるものが捨てられない/手ぶらで参加できない/新しい祈祷書の内容や購入金額が気になる(2)/祈祷書改訂が確定するまで新しい日課をプリント配布するのは不便 /祈祷書抜粋版が必要/式文の聖書が最新でないものがある/祈祷書、聖書はプリントに頁数を記し礼拝の流れを止めないで/日本語式文は外国の方、目の見えない方に対応できない/データ化で全てカバーできない/「データ」を使える人と使えない人がいる

<ソフト面>

奉仕者の不足、特定の人負担(17)/多少不調でも行って作業しないとならない/礼拝奉仕する余裕がない/聖餐式の手順・所作に慣れていない(2)/陪餐の方法フレキシブルで良いのか/不自由さがある人から奉仕を断られる/ヘルプマークへの不理解とクレームが寄せられたときの対応/教会員になる時の洗礼名が不安/礼拝後のインフォメーションが長い/祈りが長く疲れる/平和の挨拶が儀礼的/平和のあいさつや報告で祈る気持ちが俗世的/礼拝全体が慌ただしく追いつくのがやっとな/SSの歌がかつての倍速/高齢者は変化についていけない/聖公会らしさが失われていく不安/余計なお世話はしない方が…と感じる/音符が読めず歌えない聖歌が多い/なじみのない聖歌はお手本がないと歌いづらい(2)/チャントが難しい/陪餐のならば方を今一度考えてほしい/日々の生活の中で祈祷書の使い方がわからない/礼拝で司式者が変わると追うのが難しい/積極的に礼拝奉仕に参加したいがどうすればいいかわからない/外国人、障害を持った方の礼拝参加が困難/猛暑時の主日礼拝の時間を変えたい/勉強会等の時間や曜日に都合が付きにくい/各ウェブサイトですべて事前に情報がほしい/新来者、他教派の人に歓迎の思いを伝えるのが難しい/聖卓を囲んでの陪餐がいつも同じ方向/礼拝奉仕ができず申し訳ない/初めていらした方が戸惑っている/動画配信が減り障害者が礼拝に触れる機会が減ったかも/現代語が覚えられない/礼拝奉仕継承出来ない/香を焚くと呼吸が苦しく席を移動したら怒られた/代祷を全て読み上げる必

要は無い様を感じる/祈祷書、特祷を改正しなくてはならないのか(3)/今の聖歌集に寂しさを感じる/新来者への式文や週報の使い方の説明が足りない

◆その他の不便さに対する提案

<ハード面>

祈祷書や説教、礼拝内容を大型スクリーンへ投影(5)/礼拝の流れをパワーポイントで作成し投影/説教内容を週報に載せる/聖書箇所を週報と一緒にする/バリアフリーの教会であることをHPに記載する/使いやすい式文準備の教会間協力/礼拝内容を順序に従ってデータ化プリントする/祈祷書、聖歌集、聖書など容易にデータを取り出せる方式を検討する(2)/週報のメディア媒体を増やす/改正を経てわかりやすくはなっているが、調べたり学んだり手元に残すことも大切/A年、B年、C年の日課は使いやすい/式文の改訂への対応を含む電子化(2)/主日ごとの特祷、日課、詩編をセットで印刷して配布/聖語などにもルビをつけてはどうか/高齢者には当日の聖歌をコピーしたものを渡す/正面の左右に写し出せば前を見ながら歌い唱え司祭の所作も見える。/どの教会にも障害者や外国の方のための新しい祈祷書や聖歌集を揃える/言葉を話すことが困難な方の存在とその人達が共に礼拝できるよう祈祷書に明記する/配布物は、礼拝中に使用するものだけにし、残りは礼拝後の報告前に配布する/スピーカーをホールに置いて礼拝が聞けるようにする/夕の礼拝は信徒が司式するための抜粋版の用意している/聖餐式に信徒は抜粋版を使用している/新来者のために詩編、聖歌が一つになっている式文を用意している/初心者用のファイルを用意している/聖歌集もA年、B年、C年に分けると軽くてよい/堅い聖書台を備える/日課朗読や代祷の為にクリアファイルに拡大文字、カラーコードを付ける/式文のタブレット化などの検討/祈祷書の(師父→司祭)をシールを貼って直す(2)/案内などをメールで流し紙の量を減らす/祈祷書改訂が決定するまでは従前の聖書日課を使う

<ソフト面>

慣れない方にはできるだけ信徒が寄り添うようにしている(2)/障害者と健常者間の軋轢の際どのようにしたら良いか知りたい/礼拝後の集会をしたい/長めのインフォメーションは礼拝後のお茶会です/長々と祈るより代祷の項目によってはそれぞれの黙想があってもよいのではないか/もう少しゆっくり進めてもらえると有難い/ファミリーバイブルの様なもの成立できる礼拝であってほしい

/教会委員の役のみにたよらず、馴れない人には隣人が手をさしのべる/送葬式(式文)/オーガニストがいなかったとしてもアカペラで歌える喜びに考え方をチェンジする/聖職者にこそ障害者理解に関する教育を徹底する/神学院での教育プログラムの中に盛り込む/オルガニストはメロディを明確に弾き、歌いやすいよう配慮する/文字や言葉を用いる礼拝に取り残されている人が必ずいるという意識をみんなが持つ/礼拝奉仕の当番制/猛暑時の主日礼拝の開始時間を変更する/礼拝用書について使うものをあらかじめ教えてもらえると助かる/献金をいつ渡すかあらかじめ教えていただけると助かる/何をしてほしいのか直接うかがうことが大切/受付での案内とアナウンス/礼拝をいかにきちんと守っていくかが鍵/多少不調があってもいける教会がいい/慣れていないと日課や代祷を読み上げる礼拝奉仕に自信がなく拒む/都合が付きにくい方がzoomで参加する機会を増やしている/堅信式に向けての勉強会/朝7:30の礼拝をオンラインにする/聖卓を囲んでの陪餐を違う方向からにしてほしい/若い人に奉仕を引き継ぐことについて皆で考える/初めての人が迷っているときはアッシャーに声をかける/難しいチャンとを1曲ずつでも礼拝後に練習する機会を設ける/練習会、勉強会等/体調不良の人の為に後方の席を確保して欲しい/強制ではなく礼拝奉仕当番制などもっと積極的にアプローチしてもよいのではないか/初めて礼拝に出られる方への説明などアッシャー担当間で一定レベルの説明を共有する/目の不自由な方に対して介助で聖堂内へ導く/不便をなくすという発想ではなく、不便を楽しむ、不便さを助けあい補い合うという発想/教父母から新しい方へ奉仕の紹介をする

【2】 その他 ①「教会活動や奉仕について、困っていること」について

2-1. 体の不自由さ、言語、ジェンダーの視点から困っていること

<ハード面>

スロープはあるが、回り道が必要で使いづらい位置にある/礼拝堂が2階にあり、階段昇降が困難/中庭や玄関に段差や傾斜があり、転倒の危険がある/車椅子の利用スペースが限られている/土足禁止のため、靴を脱ぐ際に転倒の恐れがある/補聴器をつけてもお説教が聞き取りにくい、話の速さについていけない/ホールでのプログラム時にマイクの不調がある。/聖具(ろうそくや十字架)が

思わぬ場所にあり、白杖でも察知できず危険/大量の紙のチラシが配られるが、消化できず無駄に感じる（電子版の活用希望）/教区会などレポート配布が遅く、かつ電子版でないため、多言語翻訳（英訳）が間に合わない/記名簿に名前を書くのが困難（○をつけるだけ、またはQRコード入力を希望）/自動翻訳機やユニバーサルトイレなどの設備が不足しているが、資金確保が困難/点字や拡大コピーの式文を自教会で用意するのが困難

<ソフト面>

LGBTQ+やセクシャルマイノリティの存在が前提とされていない/性別二元論に基づいた性役割や集まりが維持されている/目に見えにくい障害（時間がかかる、ミスをする等）への理解が得られず疲弊する/「パソコンが使える＝何でもできる」と誤解され、読み上げソフトの限界などが理解されにくい/周囲が騒がしいと、視覚障害者が誰に話しかけていいか分からず孤立する/隣の人が黙っていなくなると、空気に話しかけてしまう気まずさがある/障害者への対応について、どう誘導・案内すべきか戸惑ってしまう/当事者の目線で何が失礼にあたるか分からず、回答に窮する/新しい聖歌を覚える機会がなく、すぐに歌えない/信徒の高齢化が進み、対応できる健常者が減っている/高齢化により活動への参加率が低下している/耳が聞こえづらい人への対応を現在検討中である

◆ 体の不自由さ、言語、ジェンダーの視点から困っていることに対する提案

<ハード面>

エレベーターを設置する/可能な限り段差を解消する/スロープを真ん中のアクセスしやすい位置に設置する/外履きのまま出入りできるスタイルを検討する/マイクの点検をこまめに行い、担当者を明確にする/難聴者向けのスピーカー付き座席を用意する（当事者への聞き取りを含める）/英語、韓国語、中国語などの多言語式文を容易に入手できるようにする/英語での日時案内や表記を取り入れ、外国の方も入りやすくする/教区レベルで点字や拡大式文を提供・共有してもらう。

<ソフト面>

「お話を聴く会」や、車椅子の使い方等のワークショップを継続・企画する/障害のある人が「お客さん」ではなく、役員として意思決定に参加できる体制を

作る/子供や若者が、コミュニケーション講座や手話・点字体験を通じて学ぶ機会を作る/手話を習得する機会を設ける/アンケートに現れない「声にならない声」や「姿」があることを常に意識する/誰にとっても居心地が良くなるよう、マジョリティもマイノリティも互いの存在を尊重する/障害をオープンにでき、それを受け入れる関係性（教会の本質）を目指す/「困っていたらお声がけください」という掲示を出す/母国語がフランス語の難民グループに対し、英語・フランス語が堪能な受給者が通訳・翻訳を行うような支援を継続する/新しい聖歌を練習する機会を作る/あらかじめ誘導や案内に関する情報を共有し、スムーズな対応ができるようにする。

2-2. その他 困っていること

<ハード面>

住所が遠いため教会に行くのが難しい/関わりが持てない/若い人たちの集まりが遠くで行われていて交流しづらい/礼拝後に会衆が集まる場所（交流スペース）がない/委員の役割分担）が不明確である/特定の活動（オルターや奉仕活動）の参加方法や手順が分かりにくい/バザーの献品ルール（クリーニング必須等）が教会ごとに異なりわかりづらい/北関東はまだ婦人会があるが今後はどうなるのか/連絡網が担当ごとに整備されていない/郵便物の紙の量が多すぎて困る/司祭の自筆メッセージで教会を身近に感じられたが今は印刷物だけになっている/全教会のメールアドレスリストがあると助かる/グループメールやLINEなどのSNS活用ができるとよい/名前を忘れてしまうため、名札があると嬉しい。

<ソフト面>

どんな奉仕があるか分からず、参加できず申し訳ない/身体的な理由（高齢・病気・体力の限界）で思うように動けず申し訳なく思う/仕事の都合（日曜多忙）や家庭の事情で、参加したいのに活動しづらい。自宅でや、平日できることはないか/自主的・積極的な奉仕が「余計なお世話」と言われないか不安/一生懸命活動しているのに、文句を言われると辛い/「聖公会に将来はない」という衰退のムードが蔓延している。教区・管区レベルでの積極的な指針提示や、抜本的な解決策を求める/新しく入った人が活動しづらい空気がある/活動が固定化し、新しい発展が乏しい/特定の活動が熱心すぎて、他の信徒が「じゃまし

てはいけない」と遠慮し、礼拝からも足が遠のく/礼拝堂内での雑談など、静かに祈りたい人への配慮が欠けている（祈りの場を重視してほしい）/伝統や土台が崩れていくような悲しさ、寂しさを感じている/世代に偏りがあり、若い信者が増えてほしいという願い/会衆が受身的になり、奉仕への想い・行動が醸成されにくい

◆ その他 困っていることに対する提案

<ハード面>

礼拝後の過ごし方として、自由に集まれる「オープンスペース」を設ける。

（課題：結婚式の控え室など、場所の工面の難しさがある/居住地近くの教会に所属する/学校関係者・卒業生に限られるものでないよう明言する/アコライトや聖歌隊などの奉仕に、学生だけでなく一般会衆も参加できる環境・枠組みを作る/「一教会一牧師」体制など、司祭と信徒が霊的に交われる持続可能な体制づくり/青年会やキャンプなど、若い世代に魅力ある具体的な活動の場を作る/皆に活動や奉仕の機会をもっと提供する

<ソフト面>

「教会はひとつの家族」という意識/お話を聴く会など毎年の企画、今後も知る機会があるとよい/「知っていて、わかっている当然」という思い込みを自覚する/丁寧に説明する努力をする/若い方が少ないので高齢者ではなく若い方にもお願いしたい/自分自身の能力不足を感じている人への心理的なフォロー/車椅子の使い方など、具体的で基本的な対応がわかるワークショップを企画する/宗教音楽や聖書の勉強会を通じた、知的・霊的な学びの場/若い信徒へ教を徐々に伝えていく/若い世代との交流を積極的に行い、会衆・学生・指導者が互いに理解を深める/アンケートのフィードバックを丁寧に行い、対話を深める

2-3. 「人が少ない」問題

動ける信徒が少なくどの活動、奉仕も同じ人に負担がかかっている。絶対的な奉仕者不足(10)/人手不足で、高齢になっても幾つもの役割を担わざるを得ない(8)/人、マンパワーの不足(5)/ 出席人数が限られ毎回何かのお役目をしなければいけない、人の固定化(2)/礼拝奉仕等次の世代がいない/継承出来る人材が居ない、老害・ハラスメントにならないか心配/仕事をやる人が決まっているので

その人がいないと大変/ほぼ教会委員だけが担わざるを得ない/信徒数の減少で奉仕活動の各担当者の負担が増えている。教会から家に戻り、夫婦間での意見を調整するのに苦慮している/奉仕が多過ぎると感じる/人手不足、特に除草、剪定など、水仕事/久しぶりに来た方にご奉仕をお願いすると、それが負担に感じるようで来られなくなる。他の教会ではどうなのか？/高齢化と信徒減少により働き人が少なく、一人何役もカケ持ちになる。そのため教会内でのことが精一杯になり外部への働きかけをする余裕がない/奉仕できる人数が少ないので活動の幅が広がらない/皆、それぞれ自身が行う奉仕に一生懸命だが、お互いのご奉仕を認め合い労わり合う気持ちがもう少しあればよいと思う/ 礼拝の奉仕者が事前に決まりにくい/当番表になかなかお名前を書いていただけない(お声がけをすると引き受けてくださるか)/ご自分から「する」と言う方は少ない。声かけを待っているのかも。なかなか休めない、休むとほかの人に負担をかけるのではないかと思ってしまう/若い人が少ないので力仕事や長時間にわたる作業や聖堂・会館・庭の手入れなどが困難(2)/高齢化により適材が得られない/5年後、10年後も続けられるように今から対策を考えないといけない/少子高齢化による教勢低下(2)/信徒の高齢化、信徒の減少による人手の不足により、礼拝奉仕者、オープンチャーチの奉仕可能な人が少ない。初来訪者に十分な対応ができなくなった/信徒の高齢化により出来る人が年々減る。負担を思うと心苦しい/オルガニストも高齢。補充をなんとかならないか/信徒・聖職者の減少・高齢化/夫婦共高齢で教会活動にあまり参加できず申しわけなく思う/高齢者の方が施設入居や、自宅から教会に来ることが困難、礼拝参加者が少なくなっている

◆「人が少ない」問題に対する提案

慣例にとらわれず、活動見直しを/大変さだけではなく礼拝奉仕の楽しさ伝えていく/「これ！」というのはいないです。でも若者にたよって若者を兵隊のように消費する教会にはなりたくない。できないことはいつそやめてしまう、ニコニコみんなができることだけを残す/赤ちゃん連れの家族が気安く来られるように、ベビーベットや、子ども用便座などと良い/ボランティアの活用/庭園のアウトソース(市町村との○業等)/全ての信徒が自分のできることを自ら捧げられる様に意識を高めていくための働きかけをする。具体的には、祈りと黙想と分かち合い、それを促す教育的なこと/奉仕者の養成というほどのことではな

いが慣れているメンバーと組み合わせて礼拝時の奉仕を誰でも出来るようにしたい/何よりお互いを思いやることが大切。不便さを感じている方(障害者の方)の声に耳を傾け、真摯に向き合うことが大事と思う/バリアフリー化には教会としても配慮していきたいので、足りないことがあれば信徒の懇談会で意見を出し合う体制はある/人手があまり望めなければ、外部の手を借りたり、ルンバの購入も考えたかどうか/お互いの違いを認め合って、否定しないで、おおらかでいたい/若い方にも教会に来ていただきたい/教会委員以外の奉仕の機会を作る、アッシャー、キャンプなどでどのような合理的配慮が求められるのか勉強会があるとよい/長年の課題であり良い解決策がまだ無い/宣教にもっと力を入れる/教会を数教会にグループ化する。そのグループ化した教会を「一牧師」とする…管理牧師制は「霊的」交わりが不完全(不安定)/一人一個の作業(お仕事)を受け持つ/役職を減らす。教会委員を12人から6人に減らしてもなんとか廻っているようだ/一律にこうすれば…という提案はない。その都度、その教会の実情に合った方法を考えるべき/教会委員数、就任規定、活動内容など教会委員の奉仕活動の見直し/声かけやコミュニケーションを図ることが大切。それによって教会活動や奉仕に参加する気持ちになると良い/奉仕についてはもっと多くの信徒が参加できるようにした方がよい/無理のない範囲で全員が奉仕に参加すること

【2】その他 ②「教会に来られない不便さ」について

<ハード面（設備や物理的環境に関係する不便さ）>

2-4. 教会に来るまでの不便さ

◎交通手段等によるもの： 電車、バスの乗り換えが大変/教会から徒歩圏内に住んでいる信徒が少なく、主日礼拝に来るので精一杯/韓国では送迎車を用意している教会が多く、子どもや高齢者の役に立っていた/日曜日の朝に都内で大規模な交通規制が行われる/駐車場が少なくて駐車しづらい。近くに教会がなく、1時間近くかかるので行くのをためらってしまう/電車の乗り継ぎ、将来、教会へ行けなくなるだろう/電車が混んでいるのと坂がきつくダブルパンチ/車で高齢者を送迎した時の駐車場の問題/駅からの徒歩15分が辛い。車での送迎を希望している/高齢者が来られる手段。車の乗り合わせなど/交通の便がもう

少しあるとよい/暑い時期には送迎が必要/距離、時間、費用/高齢で車や電車に乗れない人もいる

◎教会の立地等によるもの： 自宅から教会の場所が遠い/教会が坂の上にあるので、歩いてくるのが大変/駅からの道順がわかりにくい/住宅地に教会があるので大通りには点字ブロックがあるが、教会前の道には点字ブロックがない。車がすれ違うのも大変な狭い道に教会が面している/最寄駅からの坂道は、特に猛暑の中ではとても辛い/教会の周辺は坂道が多いため、足の不自由な人や体力に自信のない人には非常に不便な立地。

◎身体的な理由によるもの： 膝、腰が悪く、1時間かかる教会が年ごとに遠くを感じる/膝関節症が進行し、駅から教会まで歩くのが苦痛になってきた/自分も高齢になると歩行困難などで教会に行くことができなくなるかもしれないと思う/足腰が弱くなり、特に地下鉄の階段が多いと出かけるのが難しくなる。高齢者や病気で教会に来られなくなった人へのサポートが必要かと思う/老いのために歩行、乗り物に対応できなくなっている/高齢化と共に体調が悪化し、身体的に難しくなっている信徒が増えていると感じる。

◎生活環境等によるもの： 一人で行くことのできないご高齢者を年1～2回送迎しているが奉仕活動と重なるためあまり行くことができない/日本に住んでいない。日本語の礼拝が聞きたいと思うことがある/今のところ歩くことができるので不便さはないが、オンライン聖餐式を先々利用できれば嬉しい/地域との関わりが重なった時/町内会や地域奉仕が主日と重なる/日常の忙しさ/礼拝を通しての教会との交わりは日曜日。そのため、家族がクリスチャンでない場合、家族との休日の時間が割かれてしまう。バランスが難しい/信徒ではない家族の理解

2-5. 教会に来てからの不便さ

礼拝堂の中が寒い、暑いで空調がよくない/段差や階段、靴を脱がないと入れない。高齢者や体に障害のある人には入りづらいと思われる/教会は階段があり、バリアフリーになっていない/乳幼児を連れていく場合におむつ替えや着替えなどの場所がないのが困る/スリッパに履き替えると足元が不安定になり、不便。できれば土足で入れるようにしてほしい/(受け入れる側の立場から)礼拝参

加者が減っている状況があり、高齢者が礼拝に参加する際に必要なケアをする人が少ない現状がある。

＜ソフト面（人や意識に関係する不便さ）＞

◎精神的、心理面によるもの： 他の人に気づかれにくい障がいがあり、教会に行きにくいと感じることがあるが、今のところ行くことができないということはない/基本的には元気な人たちだけが行くところだと思っている。「元気な人」たちにもいろいろな事情や、持病がある。落ち込んでいても不満があっても、感謝できなくても行ける教会であればとても行きやすくなると思う/課題と感じているのは、新しい方が馴染みづらい心理的な障害があるだろうということ/教義と苦しんできた心の傷が癒されないことによる葛藤がある。お説教を聞かずに礼拝に列席するなど非常識なのだがどうしたらよいかと悩む/信徒の高齢化に伴い「身体的障害」は多くなっている。また、程度の差こそあれ、「精神的障害」は増えている。信徒全体に「多様性を認めお互いを尊重する」ということが浸透しない限り個別の対策例を羅列することは意味がない/夫は無神論者だが、自分が教会に行くことには何も言わない/仕事等で来られないときはあるが、できる限り来て祈りたい/タイヤ跡がつくのを理由に聖堂内に車椅子で入るのを拒まれショックだった。業者立ち会いで跡がつかないことを確認した/人との交わりが負担

◆ 不便さに対する提案・意見

老化に伴う身体的問題を持つようになる以外「教会から遠い」というのは原因ではないと思う/郵送で書類を送っている方を対象としたアンケートを実施して、教会がこのように変わったら行きやすくなるなどの意見を聞いてはどうか(匿名で)/最近、教会数が減らされ合併されていくようだが、行き慣れた教会に行くのも大事だと思う。信徒同士の祈りとして平日の教会が使えないかと感じる/経営のために売却してしまうのはありかと思うが、せつかくの教会(建物)が使えないのは残念だ。平日の昼間に来られる信徒たちが信徒奉事者の元で祈る場ができたなら高齢者は集まれるかなと思う/早朝や長い礼拝時間ではなく、家庭集会のように祈り、その後話ができる機会があれば集まりやすいのではと思う/聖職者が少ないなら、そのような時代に行われていたことに戻って信徒の力をつけることも大切だと思う/聖職者主導の祈りだけを求めていくのは今後難

しいと思う/「不便さ」は自分の中にある。心から教会に行きたいと望んでいるなら、自分の置かれている現状を最初に見つめる必要がある。その中で工夫できることはないか、手放せるものは何か。神との対話の中で自分に気づかなければ変わらない。教会は個々が神と対話する祈りのサポートを考えるべきかと思う/合同礼拝で他教会に行くことが難しい。合同ですることは一部の方々を排除するのではなく、一緒に移動することを声かけしたり工夫したい。

【3】 「不便さをなくすために、教会で工夫していることや良い取り組み」

3-1. バリアフリー化

フラットな床/段差をなくした/車椅子対応のトイレ/赤ん坊用のオムツ替え棚の設置/手すりの設置/入り口にスロープを設置した/折り畳み式スロープや、日曜日だけ置くスロープ/教会入り口は自動ドア/座ったまま2階に上がるレールを付けている/外階段に丈夫なハンドレールを付けた/聖堂内に車椅子利用者のスペースを設けている/車椅子用に長椅子を一行撤去し、折りたたみ椅子のスペースを常時用意している/バリアフリー献金/

3-2. 設備

具合が悪くなった人に休んでもらう簡易ベッドと車椅子を用意している/天井扇を取り付け、換気に配慮している/教会前に駐車スペースを設けている/教会活動や奉仕対象の保険に加入している

3-3. 礼拝

日曜日に礼拝が3回あるのがありがたい/主日礼拝を2回実施している/礼拝を分散して、水曜日12時30分、土曜日17時、日曜日8時、10時30分/座ったままで陪餐できる/説教をネットで聞くことができる/FMラジオ音声を聞き取れるようにしてい/ZOOM礼拝/You Tube生放送/週報をメールで送信、あるいは郵送している/Facebookで礼拝の様子を伝えている/ホームページで礼拝動画を配信している/ホームページで音声による道案内を考えている/マイクでの説教/説教原稿がメールで届き、繰り返し読むことができる/祈祷書のどこをやっているのか、司祭がページを丁寧に伝えている/文字の大きい式文を用意している/視力

の不自由な方用に、聖書や祈祷書、週報などの拡大コピー/重い聖書や聖歌を持つのが難しい方や高齢の方向けに、聖書日課の印刷や聖歌をコピーして渡している/チャントを祈祷書に貼って、必要な冊子を少しでも減らしている/聖餐式の式文だけ抜粋して簡素化している/日本語が母国語でない方のために、ローマ字の式文を一冊用意している/逝去者記念礼拝、葬送式などには、祈祷書から抜粋して作成した式文を用意している/新来者のための礼拝用ファイル(聖歌、式文、聖書日課など)を用意している/慣れない方には、できるだけ信徒が寄り添うようにしている/ルールを開けて陪餐を受けやすくした

3-4. コミュニケーション

遠方あるいは来られない方への連絡、声かけ/ウェルカムサンデーを設けて、初心者やお子さん連れの方が来やすい工夫をしている/教会委員以外の方の声を拾える場作り/教会委員以外も奉仕できる機会を設けている/「礼拝に出席できない方への牧師の訪問」希望を週報に載せている/信徒が牧師をフォローして訪問に同行することがある/月1回、会衆全体が揃って祈りを共にし、愛餐会で親睦を深めている/交通規制があることを事前にちらしなどで周知する。

3-5. 助け合い

互いに助け合う/オルガニストは他教会からの奉仕が大きい/オルガニストがいない時はヒムプレーヤーを使用/身体不自由な方の歩行に必要な見守りのポイントを、医療、介護の知識のある方がまとめている(教会全体で共有したい)/運転できる信徒が身体不自由な信徒や高齢者を迎えに行く/車による近隣の駅への送迎/清掃負担を減らす努力/アナログさが良い

3-6. 要望や意見

玄関の階段、聖書朗読の場所へのわずかな段差が不便/聖書日課は、ABC年の主日日課をデータベース化して配信し、スマホやタブレットで表示できるようにならないか/合理的配慮に関する勉強会?のフィードバックがされていないのではないか/このアンケートは教会に来られない人宛てにも送っているか/スマホでZOOM参加する方法が分からない方への講習会/不便さを考えることは大切だが、目に見えるもの、世の中の的ない考えに偏った印象を受ける。不便さは個々の人に寄り添い、その人の満たされない心(傷)を神様に癒していただき、

命を回復することと思う。来ることができない方々ひとり一人に信徒個人、または教会がどのように関わっていくのか、そこが問われているのではないか/不便さを抱える方々から、どうしたら共有できるかと皆で話し合いたい/障がいがあっても礼拝奉仕や教会委員の奉仕に参加できること/どんな人も明るくお迎えする雰囲気があること/点字の聖歌集が備えられること/掃除なども障がいがあっても一緒に参加できること/牧師が特別な礼拝の時の祈祷文をデータでくださること/特別扱いされないこと/見えない差別感がどこから来るのか考えたい/声をかける、おしゃべりをする、話を聞く、愛餐会の時に同じ食卓で食べるなど、当たり前の付き合いをしてゆきたい/みんなが常に目を向けて、声をかけて、サポートすることが基本だと思う。教会に来れば誰かに見守られているのだと思えば、不自由に感じている方の気持ちも楽になるのではないだろうか/牧師からの毎日の配信「今日のみことば」は楽しみであり、聖書の学びにつながり、牧師につながり、教会につながり、仲間につながりを感じる。礼拝に出席し、陪餐に与ることも、活動に於いても、愛餐会の食事にしても、表に見えていないところでの働き人によって成り立っていることをいつも思う/心身問わず目に見える形、見えない形、さまざまな問題を抱える方がいる。個別に対応しているが、不十分なことや至らないことも多々あると思う。その方にとって何が不便なのか、それを少しでも助けるには、今、その時何ができるのか日々その繰り返し、その積み重ねである。不便さをなくすという発想ではない/私たちは集まることに意味がある/ご迷惑をおかけするので、危ないと感じると行かないようにしている。

ワーキンググループ開催日と主な内容

第1回（2025/4/28）：メンバー紹介とワーキンググループの役割・活動期間の確認。3/20合理的配慮研修会の振り返りと当日の録画の編集について。教会がどのように「合理的配慮」の課題を考えるのか、また教会にある障害と教会のあり方について議論され、取り組みの方向性が話し合われた。動画の共有をはじめ教区内の教会・礼拝堂への具体的な働きかけ方についても協議された。

第2回（6/2）：メンバーより不便さリストや教会での聴き取りの資料が提出される。「合理的配慮」という言葉への違和感や弊害についての議論。障害者・健常者の二元論ではなく、すべての人にとっての教会の中にある「不便さ」を調査するアンケート実施を決定。ワーキンググループの名称については継続協議となった。

第3回（6/18）：ワーキンググループの名称について、「合理的配慮」と教会の目指す姿をどう考えるかの視点に立って様々な名称案が出されたが、「合理的配慮」の言葉を残しつつ、後ろにつける言葉として、～関わり合う教会を目指して～を選択。また、このグループでの「しょうがい」の表記については、「障害」に統一することを決定した。研修会の動画完成と併せてアンケート（回答期間7月～10月末）を配布予定。

第4回（11/27）：「教会活動に関するアンケート」のまとめを共有し、感想・意見交換。教会・礼拝堂のフィードバックとして、『きょうくニュース』にテーマごとに連載をすることを決定。最終的にまとめの冊子を配布することを目指す。共有された課題については皆が利用できる礼拝リソース（聖歌、式文等）を集めることとした。

第5回（12/26）：デフリンピックの報告、人権担当者会議の報告。合同礼拝の振り返り（障関連「合同礼拝の課題と今後に向けて」から）。『きょうくニュース』に掲載したアンケートの回答、まとめ方について。短期、中期、長期計画についての検討。式文や聖歌については管区の礼拝委員会にデータの共有を依頼。ワークショップの出前も検討。実施を教区礼拝については、サポー

ター、ボランティアを増やして皆が参加できるように提言していく。次回の教区礼拝や聖職按手式に生かせるように。

第6回（2026/2/2）：管区の礼拝委員会に式文のデータ共有について文書で依頼した。聖歌集は著作権の調査を進める。ワーキンググループの活動期間（2026年3月まで）の延長と新教区への引き継ぎについて、実践に移行した時にワーキングが始まるのではないか。報告書の作成には活動のまとめも入れ、各教会・礼拝堂にも配布する。アンケートまとめと報告書の作成、今後の活動可能なプログラム検討の2チームに分かれて、次回報告。

第7回（3/9）：ワーキンググループ継続の件については、教区主教の元で活動を継続する。新教区においても同様。「信徒奉事者の祝福式・学び」における合理的配慮の要望と確認。聖歌の著作権については、だいたいのまとめができたが、管区の確認が必要。アンケートのまとめ・報告書については、アンケートは『きょうくニュース』に掲載した形がよいとの判断。「教会活動に関するアンケートのまとめと提言」の文案についての検討。修正案の提案あり。高橋主教からもメッセージをいただく。冊子のタイトルは、上記のものと同じとする。今後の活動可能なプログラム検討については、短期に取り組めることとして、教区礼拝等の開催にあたり、事前に配慮できる内容を明記して告知する。手話通訳、要約筆記、音訳、ガイドヘルプなどを始め各種のサポーターを募集する。教区担当者との連携、サポーター研修（車椅子講習、ガイド、音訳、要約筆記、点字講習）など。中長期としては繋がったサポーターと教会訪問・ワークショップの開催を目指すことを提案。

第8回（4/15）：式文データ共有の案内を各教会・礼拝堂宛に出す。報告書『合理的配慮～関わり合う教会を目指して～ 教会活動に関するアンケートのまとめと提言』は4月の発行を目指す。主教からのメッセージも入れる。信徒奉事者の祝福式・学びの会における合理的配慮の確認。司祭按手式においては手話通訳、点字式文等の用意があること、フォームを明示してケアが必要な方が申し込めるように『きょうくニュース』に掲載することを決定した。今後はサポーターの受け皿作りを進め、これから一緒に歩む現北関東教区とも協働していくことを確認した。

<合理的配慮ワーキンググループ>

司祭 太田信三、飯塚哲二、海宝晋一、岸まち子、岸田静枝、杉石めぐみ、
司祭 中川英樹、中山玲子、福澤真紀子

合理的配慮 ～関わり合う教会を目指して～ 教会活動に関するアンケートまとめと提言
2025年4月～2026年3月 日本聖公会東京教区 合理的配慮ワーキンググループ報告書

2026年5月7日発行

発行：東京教区 合理的配慮ワーキンググループ

発行所：日本聖公会東京教区事務所

〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18

TEL: 03-3433-0987 FAX: 03-3433-8678